ヒメアカタテハの食草・ゼニバアオイ

近藤　伸一

アオイ科のゼニバアオイ(*Malva neglecta* WALLR)が、ヒメアカタテハの食草になっていることを確認した。これまで県下で確認された食草は、ヨモギ、ハハコグサ、チチコグサモドキ(以上キク科)、カラムシ(イラクサ科)で、アオイ科の植物は初めての記録である。

1989年10月神戸市西区岩岡町で、畑の土手に生えているアオイ科植物から、ヒメアカタテハの幼虫の巣を偶然見つけた。中令～終令の幼虫を多数確認したが、外来種と思われるこのアオイ科の種名が特定出来ないまま年月を経た。

1996年10月16日、久しぶりに同じ場所を通り、このアオイがかなり分布を広げているのに気づいた。巣はすぐに見つかり、若令から終令まで多数の幼虫を確認した。12月８日にも同地で多数の幼虫が見られ、持ち帰った終令幼虫はアオイを食べて蛹化した。

1997年春、アオイの花と実の図を、植物に詳しい清水美重子氏に見ていただき、ユーラシア大陸原産のゼニバアオイであることがわかった。

1997年10月10日(岩岡町内の別の場所で)、ヒメアカタテハがゼニバアオイに産卵しているのを見つけ、若～中令幼虫の巣を多数確認した。

当地では、過去にヨモギを食べて越冬する幼虫を確認しているが、ゼニバアオイの葉は冬季も青々としており、冬季もこの幼虫がこの葉で越冬している可能性は高い。

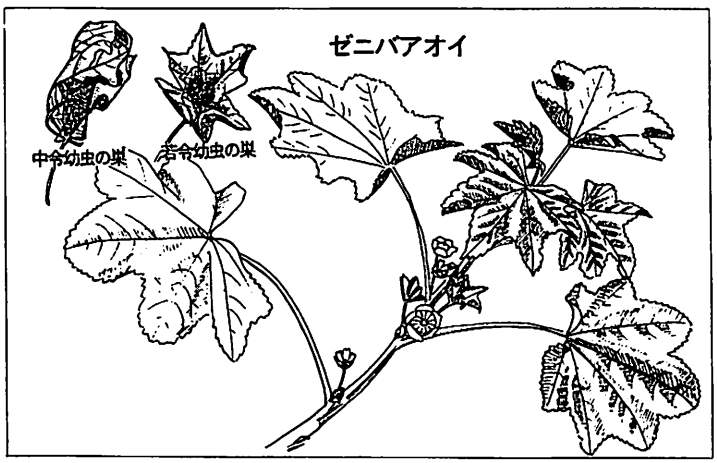
ゼニバアオイの日本における分布は知らないが、東京に帰化したものに和名がつけられたそうで、外来種特有の強さで分布を拡げている。現在で西区周辺のみならず、加古川市周辺でも畑の縁でよく見られ、各地でヒメアカタテハの重要な食草になっているものと思われる。日本に帰化している *Malva* 属は、他にもフユアオイ、ゼニアオイ、ウサギアオイなど多く、これらの植物もヒメアカタテハの食草になっているのかどうか、調査が必要である。

＜参考文献＞

長田武正(1981)　原色日本帰化植物図鑑　保育社・大阪

長田武正(1985)　野草図鑑７　さくらそうの巻　保育社・大阪

近藤伸一(1984)　兵庫県におけるヒメアカタテハについて　ひろおび(7):1-14

唐土洋一(1997)　ヒメアカタテハの食草について　てんとうむし(11):83

(KONDO SHINICHI　神戸市西区岩岡町岩岡619-57)